

## 学則変更の趣旨等を記載した書類

### 1. 学則変更（収容定員変更）の内容

富山大学医学部医学科では、「緊急医師確保対策」及び「地域の医師確保の観点からの増」に基づき、入学定員の臨時的な増員を平成21年度以降令和6年度まで継続して実施した。

令和6年度を期限とする計10名の入学定員について、令和7年度に再度の入学定員増を行い、入学定員は、令和7年度に再度の入学定員増を行わなかった場合の95名から105名に変更する。令和7年度までの期限を付した入学定員増を踏まえ、令和12年度の収容定員については、再度の定員増を行わなかった場合の595名から605名に変更する。

### 2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

地域医療に貢献する優れた人材を養成することは、昭和50年の富山医科薬科大学設立からの使命であり、本学医学部医学科においても、地域の人々に貢献し、国際性を備えた医療人の育成を教育目標として、人材養成に努めている。

本学においては、平成19年度入試から新たに医学部医学科に募集人員8人以内の推薦入試「地域枠」を導入したが、深刻な医師不足の状況を打破するにはまだ十分ではなく、富山県における医師不足解消に貢献するために、平成21年度から富山県との緊密な連携・協力により、医学部医学科に地域定着策による臨時定員5人増と「経済財政改革の基本方針2008」を受けた5人増を実施した。さらに、平成22年度からは「経済財政改革の基本方針2009」を踏まえ、地域の医師確保に早急に対応するため、富山県との緊密な連携・協力のもと県内大学増員可能枠最大の臨時定員5人増を実施したが、依然として特定診療科の医師不足問題が解消しないことから、令和6年度まで継続して10名の入学定員の増員を行っている。

富山県医療計画及び富山県医師確保計画（令和6年3月改訂）では、富山県が目指す医療提供体制の課題として、特定診療科の医師の確保・養成の必要性が挙げられており、今回、令和7年度までの期限を付した再度の入学定員増を行い、「富山県特別枠」を継続することにより、富山県全体での医師の充足を目指した総合的な医師確保対策の推進に寄与する。

### 3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

本学は、高度の知識を授けるとともに、時代の要請と地域社会の要望に応え得る有為な人材を育成し、併せて、医学の進展と社会の福祉に貢献してきた。

収容定員の変更は、令和6年度まで期限を付して実施した10名の臨時定員増を、令和7年度まで再度行うものであるため、特段の教育課程等（教育方法・履修指導方法、教員組織及び大学全体の施設・設備を含む）の変更はなく、定員変更前の教育課程等と比較しても、同等以上の内容は担保している。

引き続き、下記の（1）「地域医療」に関するカリキュラム（2）富山県との連携（3）医

療機関としての地域医療への貢献等について実施する。

### (1)「地域医療」に関するカリキュラム

医学部医学科専門教育科目については、一部の選択科目を除き全て必修となっている。

専門教育科目は、将来の医師育成のため、1年次に行う早期基礎臨床体験実習に始まり、医療学入門、介護体験実習等において少人数グループに分かれての実習及びクラス全員で集まり行う総合討論など、カリキュラムに勉学のモチベーションを高める工夫を取り入れている。3年次では、社会医学系の講義において、地域医療に関する内容を取り込んでいるほか、4年次後半から実施する臨床実習において、地域中核病院での実習を取り入れ、地域医療の現場において実践的な教育を行っている。

### ※「地域医療」に関するカリキュラム概要

#### (1年次)

医療学入門 1単位 学内講義室及び福祉施設において実施。

##### ・全体

豊かな人間性を持った「よき医療人」となるために、複数のユニットに分けて、基本的な医療倫理、ヒューマニズムならびにプロフェッショナリズム、良好な病者・医療者関係、医療と地域社会との関わりについて理解し、生涯にわたって自らの行動規範として実践できる姿勢を身に付け、また、病む人の心を理解し共感を持って温かく接することのできる、医療人としての基本的態度を修得する。

##### ・ユニット1

将来チーム医療を担う医療系学部学生が「よき医療人」像をイメージできるようにするために、医学部医学科、看護学科、薬学部の全学生が学部横断的に共通の経験、認識を共有し、医療に関わる医学・薬学・看護学の実務者による語りを通して、医療系学生が職種間の連携と将来プロフェッショナル医療人として求められる、人の命の守護者としての基本的態度、適切な支援を行なうことができる技能と知識を身につける。

##### ・ユニット2

#### 新入生医療学研修

医学部薬学部の教育理念を学ぶとともに、協力、相互の規律正しい集団活動をとおして、学生教職員間の交流親睦を深め、今後の学園生活を豊かにすることを目的として実施。

#### 心肺蘇生講習会

近隣消防署やボランティアの協力により、医、薬、看護学生のグループによる心肺蘇生法講習（普通救命講習Ⅰ）を行う。

##### ・ユニット3

医療と社会において必要とされるコミュニケーションの意義について理解し、基本的なコミュニケーション技法を修得する。患者-医療従事者の基本的関係を総合的に理解

し、人々の生命と健康を守る専門職としての「医療人の責務」(プロフェッショナリズム)について学修する。

- ・ユニット4

全人的医療を推進できる医療者となるために、医療の実務者や病む人、障がい者や老人の介護を担っている方、薬害被害に係わられた方の語りを通して、医療と社会との関係を理解する。

- ・ユニット5

プライマリケアにとって重要な医療と福祉の連携を福祉施設、介護施設、医療施設での介護体験実習を通して理解する。

### (3年次)

- ・環境保健学 1単位 学内講義室において実施。

社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体及び集団をとりまく環境要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。

- ・疫学 1単位 学内講義室において実施。

疫学一般について学修するとともに、教員が実行委員として参画した疫学調査(富山県認知症高齢者実態調査)の経験やデータに基づき、富山県の認知症の実態、将来予測、対策について学ぶ。

- ・富山医療学 1単位 学内講義室において実施。

国の保健・医療・福祉と介護の制度(母子保健、老人保健、精神保健、学校保健、医療関連法規)を学修するとともに、富山県医師会や全国健康保険協会富山支部、富山県の協力を得て、国の制度と比較しつつ、富山県の保健・医療・福祉と介護の現状や課題及び今後について学ぶ。

### (4年次～6年次)

- ・臨床実習

総合診療科における臨床実習において、地域医療に関するレクチャーを行うほか、豊富な臨床例を持つ富山県内を中心とする9の地域中核病院で1週間の地域医療実習を行い、プライマリケアや病診連携・病病連携、在宅医療などを体験させている。

### (5年次～6年次)

- ・選択制臨床実習

附属病院で16週間、富山県内を中心とする14の地域中核病院で8週間、計24週間のクリニカル・クラークシップを実施している。

## (2) 富山県との連携

富山県においては、地域医療の課題解決に必要な医師を確保するため、富山大学と連携の一つである、医療従事者の確保・養成を行うため卒業一定期間の地域医療等の従事を条件とする奨学金を設定した。この奨学金は、総合型選抜「富山県特別枠」で入学した学生を対象としている。

総合型選抜「富山県特別枠」の出願要件については、富山県内の高等学校等を卒業見込みの者若しくは卒業後2年以内の者又は出願時に富山県在住で2年以内に高等学校卒業認定試験に合格した者と富山県出身者を対象とし、かつ、医師免許取得後、富山県内で診療に従事することを確約することとしており、特段の事情がない限り、卒業後、富山県内で診療に従事することが見込まれる。

奨学金の内容は下記のとおりである。

### ※奨学金の概要

#### ・名称

富山県地域医療確保修学資金貸与制度

#### ・貸与額

修学費： 100,000円（月額）

入学料相当額： 282,000円

授業料相当額： 536,000円（年額）

6年間総支給額： 10,698,000円

#### ・返還免除の条件

富山大学を卒業後、医師となり、その後指定された臨床研修病院で臨床研修を2年間行った後、知事が貸与生ごとに指定する医療機関において、地域医療に必要な診療科で、9年間診療に従事した場合、返還を免除する。また、別に定めるキャリア形成プログラム等の適用を受けること。

#### ・支給対象

医学科総合型選抜「富山県特別枠」の入学者全員を対象とする。

#### ・選抜方法

##### ①出願要件

次の(1)、(2)いずれかに該当し、かつ、①から④までのすべてに該当する者

(1) 富山県内の高等学校、特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を卒業（修了）見込みの者又は卒業（修了）後2年以内の者

(2) 出願時に富山県在住で、2年以内に高等学校卒業程度認定試験に合格した者

①医師免許取得後、一定期間富山県内で診療に従事することを確約できる者

②富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者

③大学入学共通テストの国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語及

び情報を受験する者

④合格した場合に入学を確約できる者

## ②選抜方法

- ・志願者が提出した自己推薦書及び調査書、試験当日に課す小論文と面接の結果並びに大学入学共通テストの成績を総合して選抜を行う。
- ・本学医学部医学科が課す大学入学共通テストの合計得点が70%未満の場合は、合格の対象としない。（ただし、平均点が大きく変動した場合は変更することがある。）

### （3）医療機関としての地域医療への貢献

学部教育における「地域医療」及び卒業後の専門医研修の充実を通して、地域医療に対する使命感を持ち、高度な知識・技術を有する専門医や幅広く病気を診ることのできる総合医の養成を目指す。さらに、高校訪問やアカデミックインターンシップの実施を通して、富山県内高校生等の意欲と関心を高めるとともに、地域医療に従事することを前提とする奨学金と地域枠の継続により、引き続き、県内医師不足分野の医師養成を行い、県内医療機関への定着を図る。

## 4. 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

医学部医学科の主たるキャンパスは杉谷キャンパスとなる。ただし、本学においては、教養教育科目を全学共通で五福キャンパスで開講しているため、1年次の教育は専門教育科目を含めて五福キャンパスで実施する。

両キャンパスは直線距離で約5kmであり、移動手段はバスで約20分、自動車では約10分となっている。

学生は1年間五福キャンパスもしくは杉谷キャンパスのいずれかのみで講義を受けるため、学生の移動は生じない。1年次に五福キャンパスで開講する専門教育科目については、杉谷キャンパスからの教員の移動を考慮して時間割を設定している。

令和7年度  
医学部入学定員増員計画

富大杉学第115号  
令和6年8月21日

文部科学省高等教育局長 殿

国立大学法人富山大学長  
齋 藤 滋  
(公 印 省 略)

「地域の医師確保等の観点からの令和7年度医学部入学定員の増加について（令和6年8月7日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

<連絡先>

責任者連絡先	職名・氏名	杉谷地区事務部学務課長 松田 高典
	TEL	076-434-7120
	FAX	076-434-4545
	E-mail	mpkyoumu@adm.u-toyama.ac.jp

大学名	国公立
富山大学	国立

1. 現在（令和6年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	5	0	655

↑  
(収容定員計算用)

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	計
(ア) 入学定員	105	105	105	105	105	105	630
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	110	110	110	110	110	105	655

2. 本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和7年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	5		595

↑  
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	95	95	95	95	95	95	570
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員							0
計	100	100	100	100	100	95	595
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

3. 令和7年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
105	5	0	605

↑  
(収容定員計算用)

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	計
(ア) 入学定員	105	95	95	95	95	95	580
(イ) 2年次編入学定員	5	5	5	5	5	0	25
(ウ) 3年次編入学定員							0
計	110	100	100	100	100	95	605
(臨時的な措置で減員した場合、その人数)							

増員希望人数 **10**

↑  
(内訳)

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	<b>10</b>
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	
計	<b>10</b>

## 1. 地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数

### (1) 対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	富山県	10
大学所在地以外の都道府県		
計		10

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

### (2) 修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R5地域枠定員 (※1)	R5貸与者数 (※2)	R6地域枠定員 (※1)	R6貸与者数 (※2)	R5とR6の貸与 者数のうち多い 方の数
富山県	10	16	10	11	16
					0
					0
					0
					0
計	10	16	10	11	16

(※1) 臨時定員分のみご記入ください。

(※2) 恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。

※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。



### (3) 令和7年度地域の医師確保のための入学定員増について

#### 1. 大学が講ずる措置

##### 1-1. 地域枠学生の選抜

① 令和5年度に実施した地域枠学生(令和6年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
医学部医学科 総合型選抜 「富山県特別枠」	(ii) 総合型選抜	別枠(先行型)	10	10	<p>入学者の選抜は、書類審査(自己推薦書、調査書)、試験当日に課す小論文と面接の結果並びに大学入学共通テストの成績を総合して行う。ただし、小論文又は面接において、0点の場合は、合格の対象としない。</p> <p>【配点】 書類審査・面接150点、小論文100点、大学入学共通テスト※900点、合計1150点</p> <p>※【大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点】 (5教科7科目) 国語(国語)(必須)(200点) 地理歴史(世界史B、日本史B、地理B)、公民(「倫理、政治・経済」から1)(100点) 数学[数学I・数学A及び数学II・数学B](必須)(200点) 理科[物理、化学、生物から2](200点) 外国語[英語(リスニングを含む。)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1](200点)</p>	<p>次の(1)、(2)いずれかに該当し、かつ、①から④までのすべてに該当する者</p> <p>(1) 富山県内の高等学校、特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和6年3月31日までに卒業(修了)見込みの者又は卒業(修了)後2年以内の者</p> <p>(2) 出願時に富山県在住で、令和4年4月以降に高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者</p> <p>① 富山県地域医療確保修学資金を受給し、医師免許取得後、一定期間(「富山県地域医療確保修学資金貸与制度」の規定による。)、富山県内で診療に従事することを確約できる者</p> <p>② 富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者</p> <p>③ 令和6年度大学入学共通テストの国語、地理歴史又は公民、数学、理科及び外国語を受験する者</p> <p>④ 合格した場合に入学が確約できる者</p>	有	小児科、外科(※1)、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科(※2)	R4	特別選抜(自己推薦入試「富山県特別枠」)を令和3年度(令和4年入学)から名称を総合型選抜「富山県特別枠」に変更
合計			10	10						

(※1) 貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②令和6年度に実施する地域枠学生(令和7年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。  
また、参考としてPRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法(※1)	出願要件(※1)	診療科の選定の有無	(診療科の選定(推奨)がある場合)その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
医学部医学科 総合型選抜 「富山県特別枠」	(ii) 総合型選抜	別枠(先行型)	10	10	①入学者の選抜は、大学入学共通テスト、書類審査(自己推薦書、調査書)、小論文及び面接の結果を総合して行う。ただし、小論文又は面接において、0点の場合は、合格の対象としない。 ②本学医学部医学科が課す大学入学共通テストの合計得点が70%未満の場合は、合格の対象としない。(ただし、平均点が大きく変動した場合は変更することがある。) 【配点】 書類審査・面接150点、小論文100点、大学入学共通テスト※1000点、合計1250点 ※【大学入学共通テストの利用教科・科目及び配点】 <6教科8科目> 国(国)(必須)(200点) 地歴(地総・地探、歴総・日探、歴総・世探、地総/歴総/公)及び公民(公・倫、公・政経)から1(100点) 数【数Ⅰ・数A】(必須)及び【数Ⅱ・数B・数C】(必須)(200点) 理【物、化、生から2】(200点) 外【英(リスニングを含む。)、独、仏、中、韓から1】(200点) 情【情Ⅰ】(必須)(100点)	次の(1)、(2)いずれかに該当し、かつ、①から④までのすべてに該当する者 (1) 富山県内の高等学校、特別支援学校の高等部又は高等専門学校の3年次を令和7年3月31日までに卒業(修了)見込みの者又は卒業(修了)後2年以内の者 (2) 出願時に富山県在住で、令和5年4月以降に高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者 ① 富山県地域医療確保修学資金を受給し、医師免許取得後、一定期間(「富山県地域医療確保修学資金貸与制度」の規定による。)、富山県内で診療に従事することを確約できる者 ② 富山県内の地域医療に貢献するという強い意志を有する者 ③ 令和7年度大学入学共通テストの国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語及び情報を受験する者 ④ 合格した場合に入学が確約できる者	有	小児科、外科(※1)、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科(※2)	R4	
合計			10	10						

(※1) 貴大学において、PRのために作成した文書(リーフレット、ホームページ、テレビ、新聞、雑誌等)に記載の内容(貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容)をご記入ください。  
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

## 1-2. 教育内容

①地域枠学生が卒業後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和7年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次には「医療学入門」において地域の高齢者施設等で「介護体験実習」を行い、地域の保健・医療・福祉・介護の現場を体験学修する。3年次の「環境保健学」や「富山医療学」で、地域における保健・医療・福祉・介護の現状と課題や関連する法制度の学修をする。4年次後半からの臨床実習では、富山県内の病院等で、救急医療、在宅医療、プライマリケア等の地域医療全般を学修する。  
また、ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業で提供する、「地域を守る医療人の養成プログラム」の『エッセンシャル・コース』並びに『アドバンスド・コース』を学修することにより、地域医療を担う医師としての資質を高める。

（参考：記入例）

1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和7年度からは、■ ■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

地域定着の取組みとして、6年間を通じた地域医療に関するカリキュラムを実施している。また、地域枠に限らず県内高校出身率を高めるための取組みとしては、県内高校訪問やアカデミック・インターンシップ等の高大連携を充実させている。また、地域枠・特別枠学生と大学教員との人間関係や信頼関係を強固なものにするために定期的な面談や事業等を実施している。

（参考：記入例）

平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■ ■などの取組を行ってきた。令和6年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者 (※1)	必修／選択の別		講義／実習の 別	単位 数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年生	医療学入門	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3年生	環境保健学	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
3年生	疫学	全員	必修	必修	講義	1	R4
3年生	救急・災害医学	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
3年生	富山医療学	全員	必修	必修	講義	1	H30
4年生	社会医学実習	全員	必修	必修	講義	1	H21以前
4から6年生	臨床実習（総合診療科）	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
4から6年生	臨床実習（救急科）	全員	必修	必修	実習	2	H21以前
4から6年生	臨床実習（地域医療）	全員	必修	必修	実習	1	H21以前
5から6年生	選択制臨床実習	全員	必修	必修	実習	12	H21以前

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 (※1)	都道府県との連携	期間 (例：○週間)	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1～6年	特定診療科キャリアパスガイダンス	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年3回	富山県特別枠の特定診療科（選択できる診療科）のキャリア形成ついて、先輩医師から情報を提供するセミナー	H29
1～6年	富山県特別枠の集い	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年1回	富山県特別枠出身の先輩医師による講演と学生との懇談会	H29
主に1年	地域枠・富山県特別枠新入生歓迎会	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年1回	医学部長・病院長・特定診療科の医師による地域医療へのモチベーション形成のための歓迎会	H29
1～6年	とやま医療未来塾	全員	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	年3回	富山の地域医療に携わる医師を養成するためのセミナー	R4
1～6年	地域医療体験フレキシブル実習	地域枠学生	富山県が大学に設置する地域医療総合支援学講座で実施	数日～2週間程度	学生が自ら経験したい地域医療のフィールド（地域や診療施設）を決め、自由に計画を立てて地域医療を体験する。	R5

(※1) 対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和5年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
サマースクール	富山大学医学科3年次の地域枠学生等と新潟大学医学科3年次の地域枠学生等が合同でフィールドワークを行い、地域医療や多職種連携等について学修する。	R5

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままご提出ください。

## 2. 都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第4条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。

なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定 主体	貸与人数	貸与対象	貸与額（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定 の有無	（診療科の限定 （推奨）がある場 合） その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の 有無（※1）			
富山県	10	新入生	100,000	10,698,000	富山大学を入学後、別に定めるキャリア形成卒前支援プラン（※1）の適用を受けることに同意の上、卒業後は、キャリア形成プログラム（※2）に基づきその後指定された臨床研修病院で臨床研修（医師法第16条の2第1項に規定する研修）を2年間行った後、知事が貸与生ごとに指定する医療機関において、地域医療に必要な診療科（小児科、外科（※3）、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科（※4））で、9年間（※5）（修学資金貸与期間の1.5倍）診療に従事した場合、返還を免除します。（返還免除の条件を満たさない場合は、貸与額に所定の利子率を乗じて得た額を返還していただきます）	②大学における選抜と同時に都道府県において面接等を実施	○	有	小児科、外科（※1）、産科、麻酔科、救急科、総合診療科、脳神経外科、感染症内科（※2）  ※1 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含まない。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とする。 ※2 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合は対象とする。	選抜において、富山大学教員並びに富山県担当者が合同で面接を行っている。また、大学入学共通テストを課している。  総貸与額10,698,000円には、月額貸与額100,000円×72ヶ月=7,200,000円その他、入学料相当額282,000円及び授業料相当額536,000×6年=3,216,000円を含んでいる。

				<p>※1 キャリア形成卒前支援プランとは、大学や医療機関等と連携し、学生の地域医療等の意識の涵養を図るためのプロジェクト（卒前支援プロジェクト）です。</p> <p>※2 キャリア形成プログラムとは「富山県特別枠」で入学し、卒業後、医師免許を取得した者を対象として、地域医療に従事する医師のキャリア形成上の不安解消、医師不足地域・診療科の解消を目的として、富山県が主体的となり、策定された医師の就業に係るプログラムです。</p> <p>※3 外科は、新専門医制度の基本領域における「外科」のみを指し、整形外科及び形成外科は含みません。基本領域「外科」を修了した後、サブスペシャリティ領域の専門分野に従事する場合は、「呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科」を対象とします。</p> <p>※4 基本領域「内科」を修了した後、サブスペシャリティ領域「感染症」の専門分野に従事する場合を対象とします。その場合に限り、修学資金の返還を免除します。（基本領域「内科」を終了後、感染症の専門分野に従事しなかった場合、基本領域「内科」の従事期間も返還免除の対象とはなりません。）</p> <p>※5 返還免除に必要な期間は、臨床研修の2年間に診療従事の9年間を加えた11年間となります。</p>				
--	--	--	--	--	--	--	--	--

(※1) 診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
富山県特別枠学生との個別面談	富山県特別枠学生全員（5～6年生）の個別面談（相談・進路指導）を年1回実施（富山大学教員と富山県担当者とは連携して実施）	H29
富山県特別枠卒業生との個別面談	富山県特別枠を卒業した初期研修医に対して個別面談（相談・進路指導）を年1回実施（富山大学教員と富山県担当者とは連携して実施）	R1

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

### 3. その他

**1～2に記入したものの以外で、**その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

令和元年度から、これまで富山県特別枠学生にのみ行ってきた定期面談を、地域枠学生（富山県からの奨学金支給がない推薦入試で選抜された学生）も一緒に、クラス担当教員や地域医療関係教員の指導のもと、地域定着のための定期面談を実施することにした。

教育課程等の概要																	
(医学部医学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員	
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	○		2		○								兼1	
		人間と倫理	1前・後	○		2		○								兼1	
		こころの科学	1前・後	○		2		○								兼1	
		現代と教育	1前・後	○		2		○								兼1	
		日本の歴史と社会	1前・後	○		2		○								兼1	
		東洋の歴史と社会	1前・後	○		2		○								兼1	
		西洋の歴史と社会	1前・後	○		2		○								兼1	
		日本文学	1前・後	○		2		○								兼1	
		外国文学	1前・後	○		2		○								兼1	
		言語と文化	1前・後	○		2		○								兼1	
		音楽	1前・後	○		2		○								兼1	
		美術	1前・後	○		2		○								兼1	
		美術表現A	1前・後	○		2		○								兼1	
		美術表現B	1前・後	○		2		○								兼1	
		言語表現	1前・後	○		2		○								兼1	
		治療の文化史	1前・後	○		2		○								兼1	
		異文化間コミュニケーション	1前・後	○		2		○								兼1	
		異文化理解	1前・後	○		2		○								兼1	
	小計(18科目)	-	-	0	36	0		-			0	0	0	0	0	兼17	-
社会科学系		現代社会論	1前・後	○		2		○								兼1	
		日本国憲法	1前・後	○		2		○								兼1	
		国家と市民	1前・後	○		2		○								兼1	
		経済生活と法	1前・後	○		2		○								兼1	
		市民生活と法	1前・後	○		2		○								兼1	
		はじめての経済学	1前・後	○		2		○								兼1	
		産業と経済を学ぶ	1前・後	○		2		○								兼1	
		経営資源のとらえ方	1前・後	○		2		○								兼1	
		市場と企業の関係	1前・後	○		2		○								兼1	
		地域の経済と社会・文化	1前・後	○		2		○								兼1	
	小計(10科目)	-	-	0	20	0		-			0	0	0	0	0	兼8	-
自然科学系		自然科学への扉-A	1前・後			2		○								兼1	
		自然科学への扉-B	1前・後			2		○								兼1	
		自然科学への扉-C	1前・後			2		○								兼1	
		科学技術への扉-A	1前・後			2		○								兼1	
		科学技術への扉-B	1前・後			2		○								兼1	
		生命の世界	1前・後			2		○								兼1	
		社会と情報の数理	1前・後			2		○								兼1	
		デザインと生物	1前・後			2		○								兼1	
	小計(8科目)	-	-	0	0	16		-			0	0	0	0	0	兼8	-
理系基盤教育系		生命科学I-A	1前	○		2		○								兼1	
		生命科学II-A	1後	○		2		○								兼1	
		生物学実験-A	1後	○		1				○						兼1	
		解析学-A	1前	○		2		○								兼1	
		線形代数学	1後	○		2		○								兼1	
		物理学I-A	1前	○		2		○								兼1	
		物理学I-B	1前	○		2		○								兼1	
		物理学II-A	1後	○		2		○								兼1	
		物理学II-B	1後	○		2		○								兼1	
		化学・物理学実験-A	1前	○		1					○					兼1	
		現代物理学入門	1後	○		2		○								兼1	
		基礎化学-A	1前	○		2		○								兼1	
		生体有機化学	1後	○		2		○								兼1	
		生物無機化学入門	1後	○		2		○								兼1	
	小計(14科目)	-	-	12	14	0		-			0	0	0	0	0	兼6	-



科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
																基幹教員以外(除く)の教員	
教養教育科目	医療心理学	1前・後				2	○			1							
	概説医療心理学	1前・後	○	1			○			1							兼1
	認知科学	1前・後	○		2		○										兼1
	脳科学入門	1前・後	○		2		○			1							兼1
	生命科学入門	1前・後	○		2		○										兼1
	免疫学入門	1前・後	○		2		○										兼1
	身近な医学	1前・後	○		2		○			1							兼1
	障害とアクセシビリティ	1前・後	○		2		○										兼1
	医療と地域社会	1前・後	○		2		○			1							兼1
	小計(9科目)	-	-	-	1	14	2	-	-	-	3	0	0	0	0	0	兼4
総合科目系	環境	1前・後	○		2		○										兼1
	ジェンダー	1前・後	○		2		○										兼1
	技術と社会	1前・後	○		2		○										兼1
	現代文化	1前・後	○		2		○										兼1
	人権と福祉	1前・後	○		2		○										兼1
	環日本海	1前・後	○		2		○										兼1
	科学と社会	1前・後	○		2		○										兼1
	アカデミック・デザイン	1前・後	○		2		○										兼1
	ビジネス思考	1前・後	○		2		○										兼1
	データサイエンスの世界	1前・後	○		1		○										兼1
	データサイエンスの実践	1前・後	○		1		○										兼1
	教養としての都市デザイン学	1前・後	○		2		○										兼1
	SDGs入門	1前・後	○		2		○										兼1
	薬都とやま学	1前・後	○		2		○										兼1
	平和学入門	1前・後	○		2		○										兼1
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後	○		2		○										兼1
	富山から考える震災・復興学	1前・後	○		2		○										兼1
	環境と安全管理	1前・後	○		2		○										兼1
	万葉学	1前・後	○		2		○										兼1
	日本海学	1前・後	○		2		○										兼1
	富山大学学	1前・後	○		2		○										兼1
	とやま地域学	1前・後	○		2		○										兼1
	時事的問題	1前・後	○		2		○										兼1
	災害救援ボランティア論	1前・後	○		2		○										兼1
	感性をはぐくむ	1前・後	○		2		○										兼1
	日本事情/芸術文化	1前・後	○		2		○										兼1
	日本事情/自然社会	1前・後	○		2		○										兼1
	学士力・人間力基礎	1前・後	○		2		○										兼1
	富山学	1前・後	○		2		○										兼1
	地域ライフプラン	1前・後	○		2		○										兼1
	産業観光学	1前・後	○		2		○										兼1
	富山のものづくり概論	1前・後	○		2		○										兼1
	富山の地域づくり	1前・後	○		2		○										兼1
小計(33科目)	-	-	-	0	64	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼26	-
外国語系	E S P I (Level-based)	1前	○		1				○								兼1
	E S P II (Interest-based)	1後	○		1				○								兼1
	基盤英語 I	1前	○		1				○								兼1
	基盤英語 II	1後	○	1					○								兼1
	ドイツ語基礎 I	1前	○		1				○								兼1
	ドイツ語基礎 II	1後	○		1				○								兼1
	ドイツ語コミュニケーション I	1前	○		1				○								兼1
	ドイツ語コミュニケーション II	1後	○		1				○								兼1
	フランス語基礎 I	1前	○		1				○								兼1
	フランス語基礎 II	1後	○		1				○								兼1
	フランス語コミュニケーション I	1前	○		1				○								兼1
	フランス語コミュニケーション II	1後	○		1				○								兼1
中国語基礎 I	1前	○		1				○								兼1	
中国語基礎 II	1後	○		1				○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員以外の教員			
教養教育科目	外国語系	中国語コミュニケーションⅠ	1前	○		1			○								兼1	集中 集中	
		中国語コミュニケーションⅡ	1後	○		1			○								兼1		
		朝鮮語基礎Ⅰ	1前	○		1			○								兼1		
		朝鮮語基礎Ⅱ	1後	○		1			○								兼1		
		朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	○		1			○								兼1		
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	○		1			○								兼1		
		ロシア語基礎Ⅰ	1前	○		1			○								兼1		
		ロシア語基礎Ⅱ	1後	○		1			○								兼1		
		ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	○		1			○								兼1		
		ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	○		1			○								兼1		
		日本語リテラシーⅠ	1前	○		1			○								兼1		
		日本語リテラシーⅡ	1後	○		1			○								兼1		
		日本語コミュニケーションⅠ	1前	○		1			○								兼1		
		日本語コミュニケーションⅡ	1後	○		1			○								兼1		
		発展多言語演習ドイツ語	2前	○		1			○								兼1		
発展多言語演習中国語	2前	○		1			○								兼1				
日本語コミュニケーションⅢ	2前				1		○								兼1				
日本語/専門研究	2前				1		○								兼1				
小計(32科目)	-	-	-	4	26	2				0	0	0	0	0	0	兼13	-		
体育健系	健康・スポーツ/講義	健康・スポーツ/講義	1後	○		1		○									兼1		
		健康・スポーツ/実技	1前	○	1					○							兼1		
		小計(2科目)	-	-	1	1	0				0	0	0	0	0	0	兼1	-	
情報処	情報処理	情報処理	1前	○	2				○								兼4		
		応用情報処理	1後			2			○								兼1		
		小計(2科目)	-	-	2	0	2				0	0	0	0	0	0	兼4	-	
専門教育科目	ナブ リズム エッ ショ	医学英語Ⅰ	2前	○	1			○			1	1							
		医学英語Ⅱ	3後	○	1			○			4	2					兼5		
		医学英語Ⅲ	4前	○	1			○			3	2		4			兼2		
		医療プロフェッショナルリズム	4後・6前	○	1			○			6								
		生命倫理学	3後	○	1			○									兼1		
	小計(5科目)	-	-	5	0	0				9	2	0	6	0		兼6	-		
	勢生 活合 的に 患 者 姿・	行動科学	行動科学	1後	○	1			○			3							
			医療学入門	1前	○	1			○		※	6			2			兼9	オムニバス ※実習
			緩和医療	4前	○	1			○			1						兼3	
			老年医学	4前	○	1			○			5	3					兼1	
社会医学実習			4前	○	1			○			2	1	1	2					
小計(5科目)	-	-	5	0	0				16	4	1	4	0		兼13	-			
学た ぶつ 姿に 勢	臨床医学統合	臨床医学統合	3後・4後	○	2			○			2			2			兼2		
		小計(1科目)	-	-	2	0	0				2	0	0	2	0		兼2	-	
究的 科探	医学概論	医学概論	1後	○	1			○			6						兼1		
		小計(1科目)	-	-	1	0	0				6	0	0	0	0		兼1	-	
専 門 知 識 に 基 づ い た 問 題 解 決 能 力	ヒトの構造の基礎	ヒトの構造の基礎	1後	○	1			○			2						兼1	※実験            ※講義	
		医科分子生物学	2前	○	3			○		※	3	3			2		兼2		
		生理学	2前	○	3			○			2				2				
		生理学実習	2前	○	1					○	2				2				
		組織学	2前	○	2			○			1				3				
		解剖学および解剖学実習	2前	○	5			※		○	1				3				
		放射線基礎医学	2後	○	1			○			1	1			1		兼1		
		微生物学	2後	○	3			○			2				1				
		免疫学	2後	○	3			○			1						兼4		
		薬理学	2後	○	3			○			1		1		1		兼2		
		病理学	2後	○	3			○			1	1			1				
		基礎医学統合	2前	○	1			○			2				5				
		成長と発達	3前	○	1			○			2	1			2		兼7		
口腔系	3前	○	1			○			1						兼2				
呼吸器系	3前	○	3			○			4	1			3		兼2				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(除く)の教員		
専門教育科目	専門知識に基づいた問題解決能力	耳鼻・咽喉系	3前	○	2			○			1						兼1	
		皮膚系	3前	○	2			○			1	1					兼3	
		眼・視覚系	3前	○	1				○		2		1				兼2	
		内分泌・栄養・代謝・乳房	3前	○	3				○		5	1			2		兼7	
		血液・造血器・リンパ系	3前	○	3				○		2						兼1	
		形成再建・美容系	3通	○	1				○		1		1					
		精神系	3前	○	2				○		1						兼3	
		生殖系	3後	○	2				○		3				1		兼5	
		循環器系	3前	○	3				○		2	2				3	兼6	
		運動器(筋骨格)系	3前	○	3				○		1					2	兼3	
		腎・尿路系疾患	3後	○	2				○		1						兼1	
		消化器疾患	3後	○	3				○		2	2			6		兼7	
		妊娠と分娩	4前	○	1				○		1	1				1	兼3	
		神経系	4前	○	3				○		3	2	1			2	兼7	
		外科学総論	3前	○	1				○		2						兼2	
		臨床腫瘍	3後	○	1				○		1						兼1	
		免疫・アレルギー疾患	3後	○	2				○		2	2					兼5	
		遺伝医学	3後	○	1				○		1						兼1	
		放射線医学	3後	○	2				○		2	1			2		兼4	
		和漢診療学	3前	○	1				○		1							
救急医学	3後	○	1				○		1									
感染症	4前	○	2				○		3	1			1		兼3			
神経・脳科学	4後	○	2				○		14						兼1			
和漢医薬学入門	2前	○	1				○		1						兼22	オムニバス ※実験		
	小計(39科目)	—	—	79	0	0	—	—	—	40	18	4	31	0	兼93	—		
す技情 能術報 力を 活科 か学	医用工学	3後	○	1			○			4	2							
	診療情報・臨床研究と医療	3後	○	1			○			1						兼1		
	小計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	5	2	0	0	0	兼1	—		
の患 診者 療ケ 技ア 術の た め	周術期管理学	4前	○	1			○			1	1			1		兼3		
	リハビリ医学	3後	○	1			○			1				1				
	臨床検査医学	3前	○	1			○			1						兼2		
	症候・病態からのアプローチ	4前	○	2			○				1							
	医療の質と安全の管理	4前	○	1			○			1								
	小計(5科目)	—	—	6	0	0	—	—	—	4	2	0	2	0	兼5	—		
ンケコ 能ーミ 力シユ カニ コニ	基本的診療技能	4前	○	2					○	4	10	4	20		兼55			
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	4	10	4	20		兼55	—		
能運種 力携 職	コミュニケーションとチーム医療	4前	○	1			○				1							
	小計(1科目)	—	—	1	0	0	—	—	—	0	1	0	0	0		—		
役社 割会 にお ける 医療 の	環境保健学	3後	○	1			○			1				1				
	疫学	3後	○	1			○			1	1			1				
	医学統計	4前	○	1			○			3	1	1		1				
	法医学	4前	○	2			○			1	1							
	医学薬学史	4後	○	1			○			1	1							
	富山医療学	3後	○	1			○			2	1							
	小計(6科目)	—	—	7	0	0	—	—	—	5	3	1	2	0		—		
臨床 実習	学内	第一内科	4通～6通	○	2					○						兼2		
	第二内科	4通～6通	○	2						1	2			3		兼4		
	第三内科	4通～6通	○	2						1	2			1		兼3		
	血液内科	4通～6通	○	1						1								
	皮膚科	4通～6通	○	1						1	1			3		兼3		
	小児科・新生児	4通～6通	○	2						2	1			1		兼7		
	神経精神科	4通～6通	○	2						1						兼2		
	放射線科	4通～6通	○	1						2	1			2		兼5		
	検査・輸血細胞治療部	4通～6通	○	1						1						兼1		
	和漢診療科	4通～6通	○	1						1	1			1		兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考					
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員				
専門教育科目	学内 臨床実習	脳神経内科	○	4通～6通	1					○	1									
		総合診療科	○	4通～6通	2					○	1	1								
		第一外科・呼吸器外科	○	4通～6通	2					○	1									
		第二外科	○	4通～6通	2					○	1				2				兼6	
		脳神経外科	○	4通～6通	1					○	1									
		整形外科	○	4通～6通	1					○	1				2				兼3	
		産科婦人科	○	4通～6通	2					○	1	1			1				兼5	
		眼科	○	4通～6通	1					○	1		1		2				兼3	
		耳鼻咽喉科	○	4通～6通	1					○	1								兼1	
		泌尿器科	○	4通～6通	1					○	1								兼1	
		麻酔科	○	4通～6通	1					○	1	1			1				兼3	
		歯科口腔外科	○	4通～6通	1					○	1								兼2	
		救急科	○	4通～6通	2					○	1									
		地域医療	○	4通～6通	1					○		1								
		感染症科	○	4通～6通	1					○	3	1			1				兼3	
		臨床腫瘍部	○	4通～6通	1					○	1								兼1	
		病理診断科	○	4通～6通	1					○	1				1				兼1	
		形成再建外科・美容外科	○	4通～6通	1					○	1		1							
		リハビリテーション科	○	4通～6通	1					○	1				1					
		多職種連携	○	4通～6通	1					○	1									
		SIM実習	○	4通～6通	1					○	1									
CPC	○	4通～6通	4					○	1	1			1				兼1			
小計(32科目)		—	—	45	0	0			—	30	15	2	22	0			兼54			
1科選択 目次	研究室配属	3前	○		4				○	46	3									
	小計(1科目)	—	—	0	4	0			—	46	3	0	0	0						
2科選択 目次	選択制臨床実習	5通～6通	○		12				○	28	21	4	35							
	小計(1科目)	—	—	0	12	0			—	28	21	4	35	0				—		
科自由 目次	基礎研究演習	1通～6通				6			○	46	3									
	小計(1科目)	—	—	0	0	6			—	46	3	0	0	0				—		
合計(229科目)		—	—	175	191	28			—	49	28	7	57	0			兼283	—		
学位又は称号		学士(医学)			学位又は学科の分野				医学関係											
卒業要件及び履修方法									授業期間等											
次の履修方法により207単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修20単位を含む36単位以上 ・専門教育科目のプロフェッショナルリズムから5単位、総合的に患者・生活者をみる姿勢から5単位、生涯にわたって共に学ぶ姿勢から2単位、科学的探究から1単位、専門知識に基づいた問題解決能力から79単位、情報・科学技術を活かす能力から2単位、患者ケアのための診療技術から6単位、コミュニケーション能力から2単位、多職種連携能力から1単位、社会における医療の役割の理解から7単位、臨床実習から45単位、選択科目1から4単位、選択科目2から12単位									1学年の学期区分			2学期								
									1学期の授業期間			15週								
									1時限の授業時間			90分								